

大学の取り組み

平成18年度フレンドシップ事業

フレンドシップ事業担当・准教授

金原 正明

フレンドシップ事業について

奈良教育大学では、子どもとのふれあい活動を通して教育実践力を育成するフレンドシップ事業を、「総合演習」「総合フィールド演習」として教員養成プログラムに取り入れています。フレンドシップ事業の目的は、学生自らが子どもを対象として実習、実験、野外活動を企画実施し、その体験活動を通じて、実践的指導力を身につけることにあります。学生がプレゼンテーションし、報告と討議を行うシンポジウムを毎年開催しています。

ふれあい活動

平成18年度は、①夢化学21世紀——理科と工作をしよう——、②青少年のための科学の祭典2006奈良大会、③ならまち探検隊、④味覚をいかしたクッキング、⑤川上村で大歓声



ならまち探検隊



川上村で大歓声



シンポジウム

を！、⑥書道を楽しもう、⑦古代探検「集まれ★古代っこ！」の7事業が行われました。目はそれぞれ、「常の生活、学校の授業では体験しにくい実験や工作を通じて科学の楽しさに触れてもらうとともに、科学に対する興味や関心を深めてもらう」、「理科や数学の好きな子ども裾野を広げ、知的好奇心に溢れた子どもを育成するための環境を形成する」、「子どもがフィールドワーク体験を通して「ならまち」に親しみ、「ならまち」への関心を高めることや、子どもとの交流を通して地域社会への理解と教育的実践力を高めていくこと」、「子どもたちの食への興味や関心を促すこと」、「山や川を身近に見つめることによって自然の大切さや自然観を認識する。地域の産業を知る。野外活動と生活を通し、分かち合いの精神からお互いを思いやる気持ちを持つ。自然のエネルギー（太陽光）

を電気エネルギーに変換するソーラーカーを製作する」、「書道に親しむ」、「古代探検を通して子どもたちに文化財の魅力や知識を伝えるとともに、私たち学生も指導者の立場に立ち、指導方法や事前指導等、身を持って体験する」であります。実践的かつ人間性を豊かにする要素を大きく有しています。対象人数は数十から数百まで、特定の学校に密着したものから地域的規模までさまざまです。

シンポジウム

シンポジウムでは活動に参加した学生・教員はもとより、地域の学校教育関係者が参加し、報告と意見が出されました。主なものとして「企画・授業の組み立ての難しさ」「協働とそのコミュニケーションの大切さ」「子どもへの理解を深めるとともに子どもとのコミュニケーション能力や指導力などを实地に研鑽する機会ともなった」「指導者としての子どもたちへの接し方を学べた」「教育実習へ行く前の貴重な経験となった」「子どもたちとふれあうことの楽しさとイベントをやり終えた後の達成感を持った」「イベントを企画・準備・運営の仕方やメディア機器の活用法を学べた」などが述べられました。

協働の難しさ、子どもへの理解と接し方、指導力の大切さを感じることによって、実践力と指導力を学ぶ、フレンドシップ事業は初期段階の教育実践プログラムとして、重要な役割を果たすものであります。